

田半古先生の門人として、絵の勉強をしていたのですが、その方が熊本で絵の展覧会するために帰って来たのです。会場は千反畑の物産館の中にちょうど展覧会をするのに適当な屋舎があったので、そこですることにしました。私は前に述べた境遇の中でも、何とかして東京へ出て絵の勉強をしたいと思っておりまして、苦しいながらも努力してわずかの金でもためておくようにしてました。それがあったものから、私としてはとにかく山中君の手伝いをしながら、私は東京へ出て絵の勉強をしたいから連れて行ってくださいませんか頼んだのです。そうしたら、「それじゃ一緒にこう、東京へ連れて行ってやる。」ということで山中君と東京へ行ったのは明治四十三年の五月でしたね。それが画家修業の本スタートとなりました。そうして当時青年画家で盛名があった熊本山鹿出身の高橋広湖先生に師事する事となりました。

### 山中君は恩人

私が東京へ出たのはいいが、当てもないし、何をして生活していけばいいかわかりませんでした。学資をもらって勉強できるという身分ではないし、自分のことは自分でやらなくては行けませんでしたが、職を捜そうにもまるで雲をつかむようです。そこで山中君にあなたが私を使ってくださいませんか、何でも

するからと頼みますと、じゃ俺の仕事を手伝えということ、彼の仕事を手伝い、少しの金で生活しました。これがなかったら私はどういって東京に足を止めることはできなかったでしょう。山中君が居なかったら生活できなかったと思うのです。彼は一生の恩人です。

### 文展に初入賞

東京へ出られるというチャンスができたことが嬉しかったですね。直ちに文展出品をやりました。落選ばかりでした。五度目に描いた「霜月頃」が大正二年の第七回文展に入賞して思いもよらない最高賞二等賞になった時ですね。二十七歳の時でした。二等賞という最高賞なんですね。一等賞というのは文展にはないのです。びっくりしたですね、嬉しかったよりむしろ恐ろしかった。二等賞なんかもらってどうなるのだろうかという一つの恐怖感みたいなものがありました。そりゃ山中君もびっくりしたですね。みんな驚きました。

この「霜月頃」という作品は、私が故郷を思い出して画いたのです。秋に熊本の郊外を歩きますと、櫛の木があり、栗が収穫されるのが見られます。その二つの光景を組み合わせてあの構図ができた訳なんです。その絵は偶然当時男爵であった細川護立さんが認めて買取ってくれました。勿論私が熊本人である事も御存知なしでした。作品は現在も細川家にある

はずです。

### 文化勲章を受ける

そりゃ文化勲章をもらった時も嬉しかったですよ、とても私なんかもらえるものではないと思っておったのですから。もらえたらいいがなとは思っておりましたが、とても私がかもらうなどとは思っておりませんでした。

その前に文化功労者にはなりましたけれども、私はそれでたくさんなんだと思いませんでした。しかし文化勲章をもらって果して自分にその値うちがあるだろうかかと反省してみると、喜んでばかりはいられません。

### 漢文の勉強

私は社交がへたなのです。世間づき合いがへたなのです。学問の研究ということですね。学問だって高等の教育を受けてみないので大してありません。ただわずかに子供の頃、漢文の勉強を少しばかりした程度で、学校も熊本高等小学校しか出ておりません。それもうちがづぶれるから、やめて、それから自分ながら将来こういうことでは駄目だと思ひ、何とかもう少し知識をつけなければというところで寺原の山口漢文塾に通いました。それ以外学問などというものはする暇もありませんでしたが、本や雑誌や新聞を読むことは好きですので、いろんな本を何

### 考えて勉強

私は絵を描く方法について、どうしたらよいかこうしたらよいかということについては、先生に聞いたことはありません。ただ、じつと先生の絵をみて、自分がそれによって知らされるだけなんです。先生の絵をみてみると奮気するですね、「自分は駄目なんだ、こんなふうでは先生に顔向けができないではないか、先生からお前よくやったと、一言でも言われるような絵を描かなければ駄目だ。」と考えることがしょつ中なんです。よくおこられ、しかられますしね、先生には随分当惑させられました。どうしたらよいかと聞けば、先生は何も言わない。ただ「考えろ、もっと勉強しろ。」と言っただけなんです。それが却ってよかったですね。私は先生の弟子でありながら先生の真似なんかちっともしないで、自分の自分の流儀のものを画いてきました。

### ピカソの絵にうたれる

私は、抽象画は抽象画なりによいと思いません。あの偉大なピカソの抽象画を見ると、感にうたれるですね。さすがだと、あの素晴らしい力というものが、これは大したものだと私は思います。抽象画が悪いなんていうことは思ったことがありません。ただ私は自分でここまでやっ

て来たのだから自分の道を歩いて、抽象画を画こうなどと思つたことはありません。自分の道を歩く飽くまでもずつとずつと掘り下げる終局点のない途です、行つても行つても先がありません、きりがな

いのです。際限がないのです。我々はそういう道を歩いているのです。抽象画は抽象画でまたその道があると思うのです。芸術という分野は色々ありますし、科学の方だって色々な分野があるでしょう。だからそれを一方的に見ていちいち悪いというのではなくて、抽象画は印象画なりにいいところがあり、印象派は印象派なりにいいところがあると思うのです。リアルに価値があつて抽象画に価値がないなんていうことはまちがいです。我々はリアルを基礎として評価しますが、自然の良さ、自然の核心を掴むというところに毎日毎日苦労しているのです。横山先生は、「自然は大切だ。しかし自然の形態だけを見ては駄目だ。自然の核心を掴まなければ駄目だ。核心には入れ、だから目で見ないで、心の目で見なさい。」ということを言われます。そこなんです。そういうふうにするのとこまでいって際限がないのです。

### これからの絵について

これからの画壇はどうなるかわかりません。私はよくこれからの絵がどうなるかというのを聞かれます。しかし芸術というものは例えば文学でも美術で

も、時の移り変わりによって刺激される、時によって刺激されて変わるんですよ。こう変わるうとして、その通りに変わったものは一つもありません。自由にやらされて変わっていくのです。抽象画は抽象画でいい才能のある人がいくらかでも出てくると思います。またリアルの方でもその才能を持っている人がいくらかでも出てくると思います。私が言いたいのは、正しくせよということなんです。心を正しくしなければ駄目なんです。

### 人間の浄化

私はいつまでも謙虚で自然を追求したいですね。「自然は人間を浄化する」という言葉がありますが、この言葉を味わえば味わう程尽きることはありません。これで自然を追求し尽くしたなんて言つてゴウ慢に反省しない様な人は芸術からソッポを向かれ、才能の終わりではないでしょうか。

### 食生活に注意

私は現在老人性痒痒で悩んでおりますが内臓は何ともないのです。達者なんです。よくあなたの健康法はなんていうことを聞かれますが、特別な健康法などやったことはありません。まあ、あるがままの生活ですね。ただ食事だけは注意しております。いつも食べ過ぎないように、食当たりにならないように注意しております。控え目なんです。腹八分とい

でもかんでも読んでいって、いつとはなしにこちゃませの知識ができたのです。その他は絵の修業一点ばりでした。私が東京へ出るとすぐ入門したのは前記高橋広湖先生です。先生は第一回文展の時重盛諫言の大作を搬入したが時間外だと言つて受付けてくれませんでした。それを見た後に東京市長をやつた後藤新平さんが買い、文展の隣の会場でただ一点のこの作を展覧し非常の賞賛を得たのです。高橋先生とは三年目死別しました。

### 横山大観に見てもらつた

その後で横山大観先生に絵をみてもらうようになりました。先生は、「習ったのでは駄目だ。習うということはただそれだけのことなんだ、習っただけしか分らないのだ。しかし芸術はそうではない、自分で啓発すべきものなんだ。自分で啓発して自分の道を踏みつけて進んでいくのが芸術なんだ。だから習っただけのものしかできない者は、絵描きになる資格はないのだ。自分で啓発しなさい。」と教えられました。先生は実際、絵の技巧については全然教えてくれませんでした。ただしてくれたのは、そういう精神的な指導だけなのです。私は先生の芸術をみてみるとわかるですね。ああ偉大な素晴らしい芸術、やはり先生がおっしゃつたような信念が絵の中に生きていくのがわかります。

### 日光の鳴き竜について

昭和三十三年に日光の輪王子の管主や文化庁、文化財保護委員の方などが四、五人見えましてね、日光の鳴き竜を画いてくれと頼まれました。これは重大なる事です、大変だ、自分にできるだろうかと思ひました。最初のみこめなかつたですよ。もつと上手な人を選んでくださいと一応お断わりしたんですが、いやあなたでなくてはいいけない、細川さんからの指名もあるのだから引き受けてくださいと言われました。

### 熊本の水は宝

水前寺はきれいですね。竜田山も美しい。熊本の水はあれは宝物なんです。日本中どこを歩いても、熊本ほど水のきれいなところはあります。熊本の水は水を大事にしないとイケないですね。私も自分の職業上、自然がきれいに残されているということが一番ありがたいですね。水前寺、八景の水谷、阿蘇、熊本城の深緑など常に私の頭の中に生きています。